

汚泥処分費を75%カット！小規模事業場が抱える大きな問題を汚泥濃縮機導入で解決

処理対象

薬品製造排水

製品名

トンパラ汚泥濃縮機

型式	NHP-250	流入量	200m ³ /日
汚泥量	1m ³ /日 (25m ³ /月)		

デモ運転

今月号では、さまざまな理由で汚泥脱水機を設置できない極小規模事業場（汚泥発生量 0.3～2.0m³/日程度）に対して『トンパラ汚泥濃縮機』が多くのメリットを生み出す事例をデモ運転の様子と合わせてご紹介いたします。

今回デモ運転にうかがったのは某薬品製造工場で、月額汚泥処分費が45万円を超えることや汚泥脱水機を導入しても管理者をおけないこと等から汚泥濃縮機をご検討いただきました。デモ運転の結果は大変良好で、汚泥濃縮機の設置により汚泥濃度0.7%を3.5%まで濃縮でき、汚泥搬出量を5分の1に削減できることが分かりました。デモ運転の結果により、年間540万円にのぼっていた汚泥処分費が108万円になり、汚泥濃縮機導入後のランニングコストを含め



コンパクトサイズで設置が簡単



フロック形成



デモ運転中のトンパラ汚泥濃縮機

ても現状の75%以上の削減ができると予想され、お客様には大変ご満足いただけました。

この事例のように汚泥濃縮機は、汚泥処分費を削減したいが汚泥脱水機を導入しても①コストメリットがない処理量 ②管理が困難 ③設置場所がない等の問題を抱える小規模事業場に最適な設備であり、汚泥量減容化装置の選択肢の一つであるといえます。

今後の導入予定

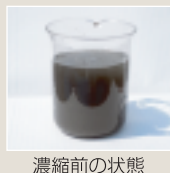
	漬物工場	佃煮工場	郊外型 ショッピングセンター
排水の種類	食品加工排水	水産加工排水	厨房排水
流入量(m ³ /日)	20m ³ /日	40m ³ /日	300m ³ /日
汚泥量(m ³ /日)	0.48m ³ /日	0.96m ³ /日	3.6m ³ /日
適合機種	NHP-250	NHP-250	NHP-500
運転時間	1時間	2時間	2時間
導入の経緯	<ul style="list-style-type: none"> 汚泥脱水機に適切な処理量ではない 十分なメンテナンスができない 導入コストが負担 		<ul style="list-style-type: none"> 汚泥脱水機を設置するスペースがない 脱水ケーキ搬出が困難

機械濃縮とは

機械濃縮は、本来処分すべき固形物量は変わらずに存在しながら水分量だけが減少する「濃縮効果」により汚泥処分費を削減します。

濃縮効果で汚泥濃度が上がる

汚泥濃縮の流れ



濃縮前の状態



濃縮後の状態



ろ液



濃縮汚泥

フロック形成により液体から固形物が分離され、濃縮汚泥となります。

お問い合わせはこちら

SCREENING & DEWATERING
ジャステック株式会社

<http://www.justec.org>

最新情報を当社ホームページからご確認ください。

〒227-0062 神奈川県横浜市青葉区青葉台 1-15-30 ミトミビル 2F

TEL 045-988-0120 FAX 045-988-0121 E-mail: tonpara@justec.org <http://www.justec.org>